

秋の農作業安全運動推進会議 資 料

令和5年8月23日

一般社団法人 日本農業機械化協会

令和4年 農作業安全総合対策推進事業

当協会は以下のような事業を実施（別途、全国農業改良普及支援協会が事故影響分析調査を実施）

- I 安全研修実施状況調査・モデル研修の実施
- II 研修用モデル資料の作成
- III 研修用動画の制作
- IV 現地見回り活動・安全装備調査の実施

本日は、主として青字部分を報告

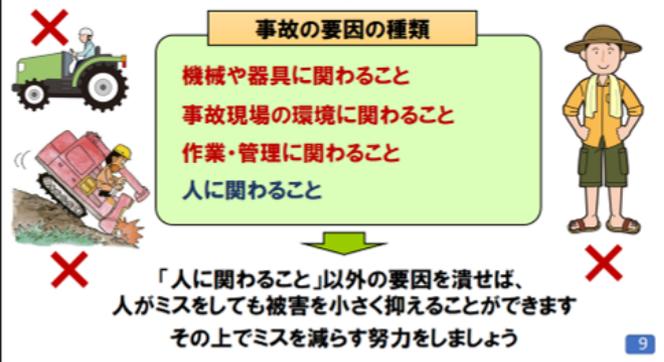
安全研修実施状況調査・モデル研修の実施

	事例収集		モデル研修実施			概要
	主催者 研修等名	人数	主催者 研修等名	講師	人数	
7.1 岡山	福田農機 2022農作業安全運転講習	50				クボタ系列販売店の安全講習。対象者は主催した販売店の顧客。整備講習と併催で午前中座学、午後の実習。講師は中四国クボタ社員で指導者向け研修受講者。主催者の話では最近事故が続いた上、定年帰農者等が多く、初めて開催したとのこと。
7.22 岡山	倉敷河上農機 商談会(安全コーナー設置)	約 100				クボタ系列販売店の安全講習。商談会のイベントのひとつとして農作業安全研修のコーナーを設置。二日間、午前午後の2回、計4回実施。講師は中四国クボタ社員で指導者向け研修受講者。昨年11月にも開催し好評だったので今回も開催したとのこと。
7.28 鹿児島			沖永良部さとうきび生産対策本部 安全研修会	積	41	沖永良部島のさとうきび生産者及び園芸農家を対象とした安全研修会。農作業事故全般に関する研修を座学で実施。J A共済の事故時補償に関する資料も配布。
10.25 京都	京都乙訓地域農業基礎講座 (農業機械安全使用)	9	同 左	気多	9	京都府主催の新規就農者を対象とした農業技術・経営の基礎講座。全4回のうち1回が農業機械研修で、ほ場を会場として農作業安全の説明及び乗用管理機・刈払機の実機による説明。農業機械士4名及び機械化協会が講師。
10.27 埼玉			埼玉県多面的機能推進会議研修会 (農業機械安全使用) 蓮田	気多	142	埼玉県土地改良事業団体連合会を事務局とする多面的機能活動参加者に対する研修会。全2.5hrのうち1hrが「農業機械の安全使用」研修で、刈払機を中心に座学で実施。交付金支払いの要件である安全研修との位置づけ。
11.10 宮城	大郷町シルバー人材センター 草刈講習会	24				シルバー人材センター構成員を対象とした刈払機の安全利用講習会。構成員100名強のうち24名が参加。講師は(株)やまびこ東北支社2名。口頭説明が主体だが一部実機を用いたデモもあり。なお、シルバーセンターの業務は8割芳草刈りとのこと。
11.11 埼玉			埼玉県多面的機能推進会議研修会 (農業機械安全使用) 熊谷	気多	223	10.27蓮田に同じ
11.17 富山	富山県農林水産公社 農業機械利用技術研修会	67	同 左	皆川 雨宮	67	富山県農業機械士会とスマート農業普及センターが共催した研修会。生産組織のオペレーター等を対象に農作業安全研修のほかスマート農業の実践事例に関する講義、直進アシスト使用トラクターの実演、フォークリフト運転操作技能競技会を実施。
11.25 福井	ふくい農林水産支援センター 農作業安全研修	27	同 左	志藤	27	農地中間管理事業を主要業務とする団体が主催する研修。刈払い機の実技指導等が好評で、農作業安全の必要性を実感した法人の経営者が機械操作の経験の浅い従業員等を参加させている。参加費を5000円徴収しているが受講生にはヘルメットを贈呈。
11.28 埼玉			埼玉県多面的機能推進会議研修会 (農業機械安全使用) 東松山	気多	138	10.27蓮田に同じ
12.9-10 岡山	ヤンマーアグリジャパン中四国 展示会 農作業安全コーナー	約40	同 左	藤盛	約40	同社顧客を対象とした中国四国地域の展示会。2日間それぞれ1回ずつイスを並べたコーナーで来場者数十名を対象に安全講習会を開催。機械化協会による説明及び同社による実機を用いたデモ・転倒体験を実施。
12.20 宮城	宮城県登米農業改良普及センター 法人対象 安全研修会	71	同 左	気多	71	同普及センター管内で最近事故が多く見られるので安全研修が計画された。主として法人化された担い手が研修の対象。機械化協会のほか、労働基準監督署が講師。
12.23 北海道	JAきたみらい 青年部・女性部 安全研修会【降雪により中止】	22 予定	同 左	気多	22 予定	同J A主催による主として若手農業者及び女性を対象とした安全研修会。機械化協会による講習の後、参加者のグループワークを予定し、テーマは、ヒヤリハット体験とシートベルト装着。【降雪により中止、情報収集を実施】
2.8-9 石川			J A野々市 営農座談会	気多	40	J A野々市が主催する営農座談会(農作業終了後の夕刻に実施)において農作業安全・事故防止の取組みについて説明。
2.14 岐阜			揖斐郡農業振興協議会 いび農業活性化研修会	志藤	60	岐阜県揖斐農林事務所と、同事務所管内の揖斐川町、大野町、池田町、JAいび川で構成される揖斐郡農業振興協議会が主催する農業活性化研修会において農作業安全研修を実施。
2.27 奈良			奈良県 果樹研究会 冬期大学	気多	54	毎年開催している同県果樹研究会において、今年度は農作業安全に関する研修を実施。受講者は殆どがカキの専業農家で比較的年齢層も若い。
3.10-11 滋賀	キセキ関西中部滋賀営業部 展示会 農作業安全講習会	数人 ×4回	同 左	気多	数人 ×4回	同社顧客を対象とした滋賀県の展示会。計3日間のうち後半2日の金・土にそれぞれ2回ずつ講習会開催。モデル研修としては農機一般、イセキからはトラクターの事故対策について説明。

II 研修用モデル資料の作成

事故を防ぐためには 1:要因

「事故は人のミスで起こる」と思われがちですが…
必ずと言っていいほど、他の要因も重なっています！



事故は人のミス以外にも3つの要因あり

事故の主要因を4つに大別すると、赤字で示した3つまでは「ついうっかり」してしまうのではなく、事前に対策ができる要因である。

【機械や器具に関わること】

左上のフレームの装備されていないトラクターを用いている図のようなこと(悪い例)

農業機械自体の安全性に問題があるかどうかとの観点

【事故現場の環境に関わること】

左下の急傾斜で段差のある進入路の図のようなこと(悪い例)

このほか、例えば農道が雑草繁茂により見通しが悪い、刈払い作業をするところのゴミを除去していないなど機械作業をする周囲の状態に関する観点

【作業・管理に関わること】

右側の不安全な服装をしている図のようなこと(悪い例)

このほか、例えば作業計画が詰め込み過ぎて無理がある、行き場所を誰にも告げずに一人で機械作業をするなど作業そのものの実施方法に関する観点

【30】【15】

9

事故を防ぐためには 2:事故事例

死亡例 乗用型トラクターでは、このような事故が発生しています(1)
※以下、この事例につき前ページの4つの要因に関し分析します

【事故の概要】農道から脱輪して田植え直後の水田へ転落
転倒し、トラクターの下敷きになった、60歳代男性 ⇒ 溺死



実際の事故事例を、前ページの4つの要因に基づき分析(本スライドから計3ページにわたる)

ひとりでトラクターを運行していて水田に転落し、本体の下敷きで動けなくなって田が湛水状態であったことから溺死した例。

一見するとどこにでもあるような農道で、危険な箇所には見えない。道幅は結構広い上、他車とのすれ違いがあった訳でもない。なぜ転落したかは本人が亡くなっているので不明。

ただし、右の写真で分かるように大きな問題があり、安全フレームを倒したまま運行していた。フレームをきちんと立て、シートベルトをしていれば、まず溺死をすることはなかったと推定される。

【30】【15】

10

IV 現地見回り活動・安全装備調査の実施

- 全国16府県で約1,500人を対象に機械で作業中または道路走行中の農業者に対し、農作業安全に関する声かけ活動を実施（このほか、補助作業員などを合わせると合計約4,000人に声かけを行った）
- 声かけをするのは各府県農業機械士会所属の農業機械士
- 農業者の方に、もっとも効果的に安全について認識してもらうのは、その機械を使っているときに声をかけることである、との発想

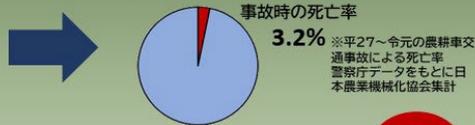
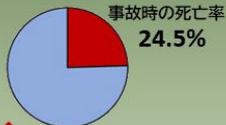
声かけ時の農業者の作業風景



現地での声かけに用いたパンフレット

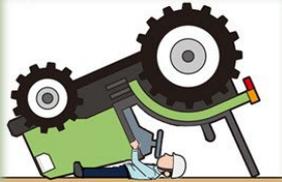
農作業死亡事故の原因 1位はトラクター転倒

シートベルトで危険は1/8に!

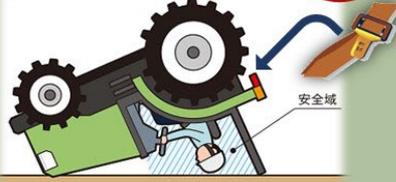


× シートベルトなし

○ シートベルトあり



体がどこに飛んでいくかわからない 下敷きになる恐れも



「安全域」という何かにつつからない範囲にとどまることができる



詳しくはネットで [農作業安全情報センター 乗用トラクター](#) 検索 ↓

刈払機は使い方も大事

- 飛散物防護カバーを取らない・動かさない
- 左側1/3のみで刈る
- 硬いものの位置を確認・除去、必要に応じナイロンコード使用
- 組作業は意思疎通と距離確保
- からみ除去はエンジン停止



詳しくはネットで [農作業安全情報センター 刈払機](#) 検索 ↓

声かけとともに調査を実施(アンケートではなく観察)

トラクター

シートベルトを締めているか？

ヘルメットをかぶっているか？

安全フレームをきちんと立てているか？

刈払機

ゴーグルかフェイスマスクをつけているか？

手袋をしているか？

長袖服を着ているか？

・・・など

様式① トラ両 【乗用型トラクター】 通し番号_____

農作業安全確認シート **声かけ・チェック両方を行った場合用**

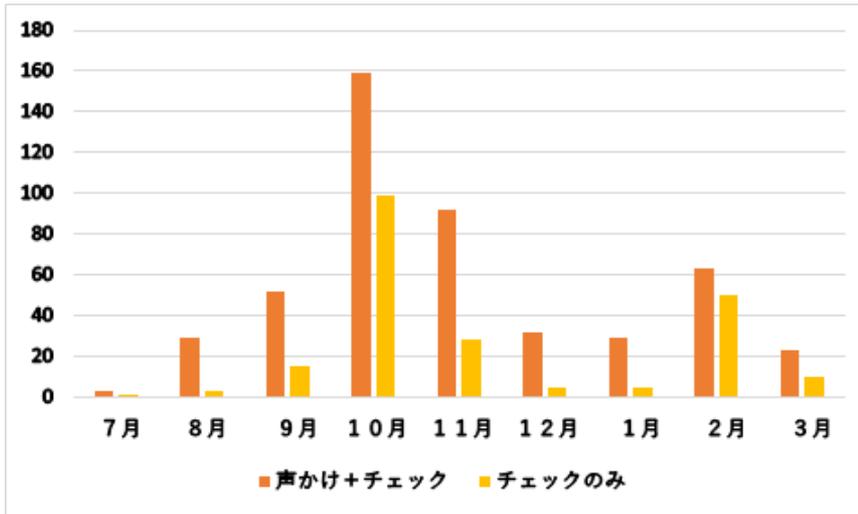
県名 担当農業機械士名 実施日 月 日

○以下は聞き取りによらず、声かけ実施者が見たままを記入して下さい。

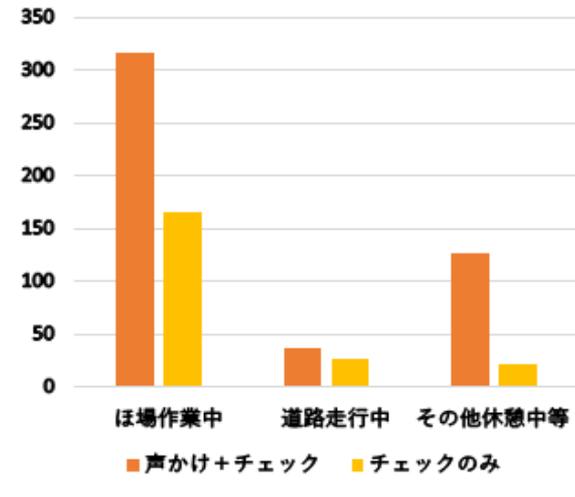
実施場所等メモ	
声かけ時の状況	()ほ場作業中 ()道路走行中 ()その他休憩中等
対象トラクター	()小型特殊免許タイプ ()大型特殊免許タイプ ()不明
安全キャブ・フレーム	()キャビン装備 ()安全フレーム装備 ()いずれもなし
安全フレーム装備機のみ	()フレームがきちんと立っている ()フレームを倒したまま
シートベルト装着	()装着 ()非装着 ()不明※ ()装備なし
ヘルメット装着	()装着 ()非装着
左右ブレーキ連結	()連結 ()非連結 ()不明
声かけをした相手の方の特性[見た目の印象で記入可]	()男性 ()女性
	()40歳未満 ()40～50歳代 ()60～70歳代 ()80歳以上
[その他特記事項]	

調査表様式

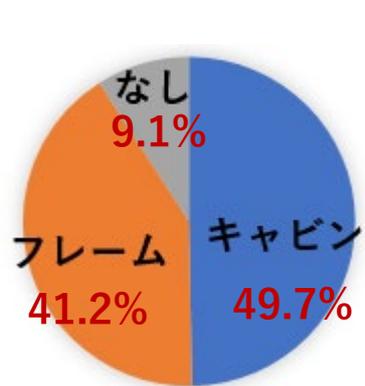
調査結果：乗用型トラクター



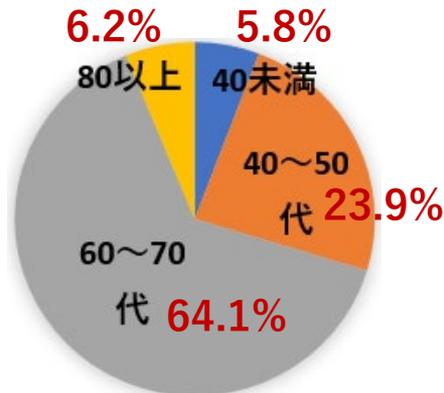
実施時期：秋が主体



チェック時の状況：作業中が多い

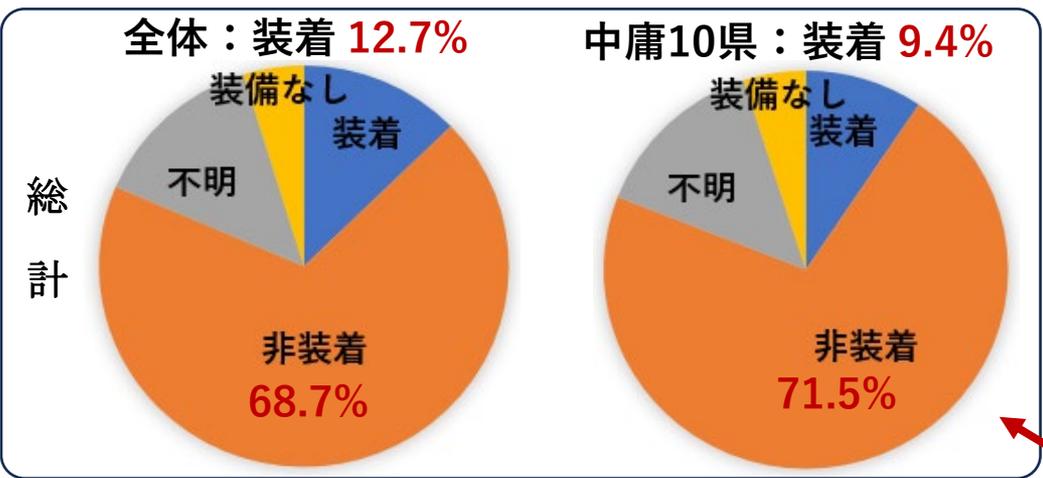


キャブフレーム別：
キャビンがやや多い



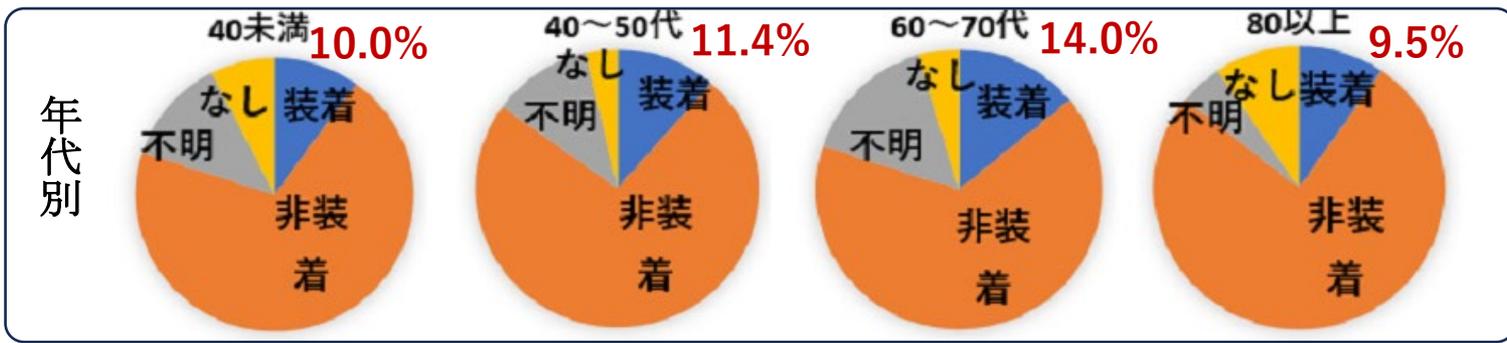
年代別：60~70代が2/3

調査結果：乗用型トラクター シートベルト装着率

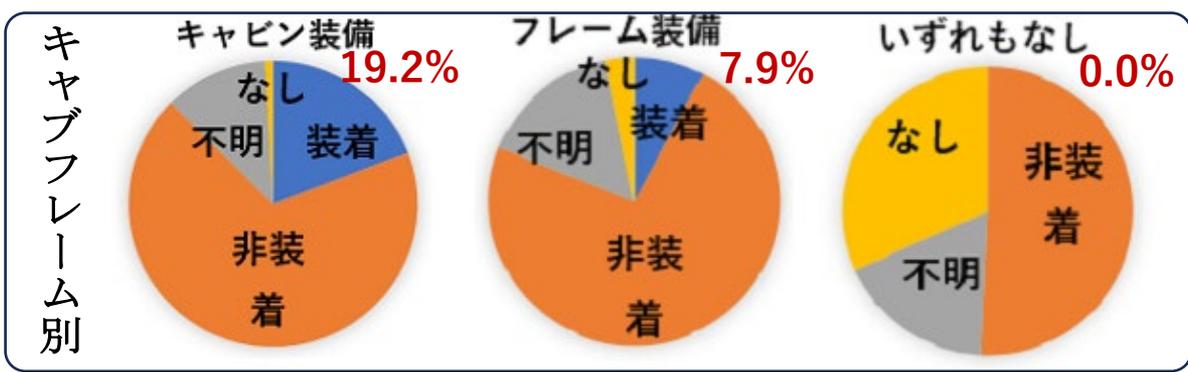


大型の方が高い

← 高い2県・低い2県を除くと率が下がる



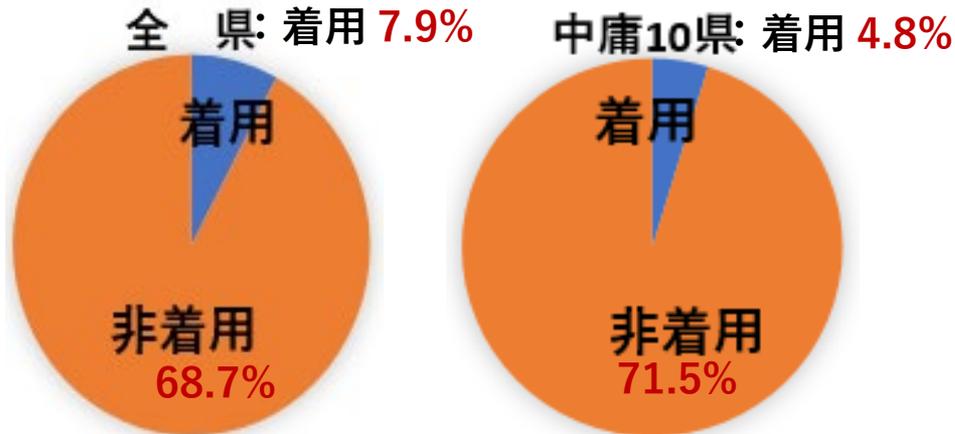
80台以上を除き、高齢の方が高い



キャビンの方が高い

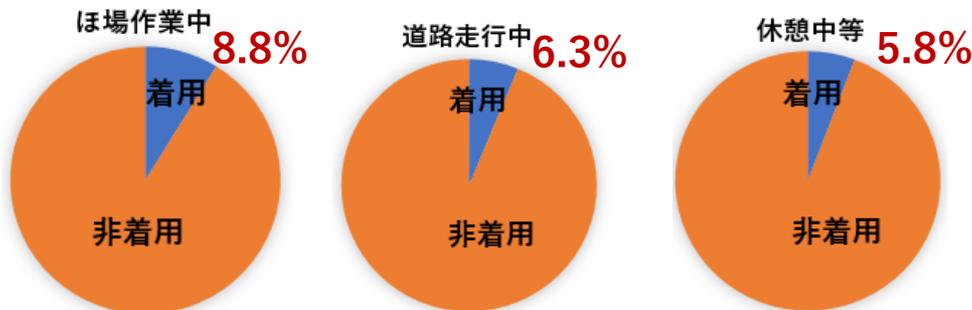
調査結果：乗用型トラクター ヘルメット着用率

総計



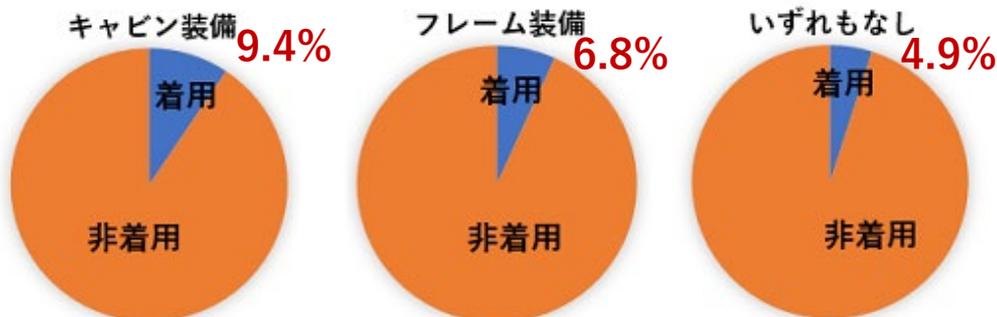
シートベルトと同様、
高い2県・低い2県
を除くと率が下がる

作業状態別



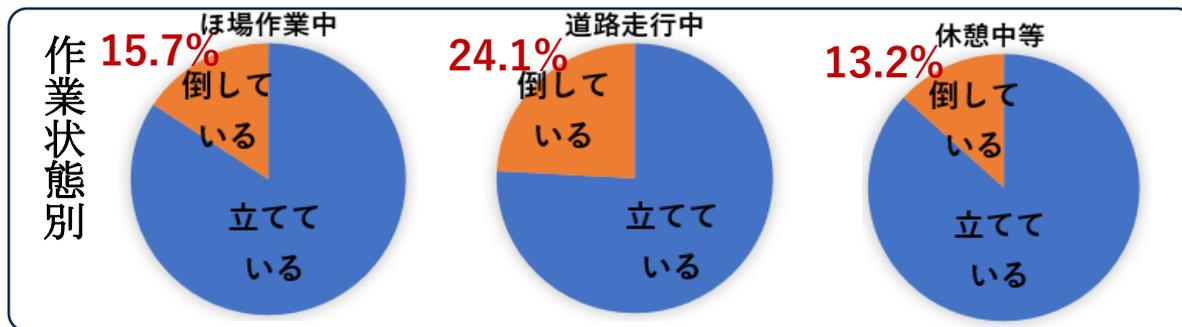
ほ場作業中が
若干高い

キャブフレーム別

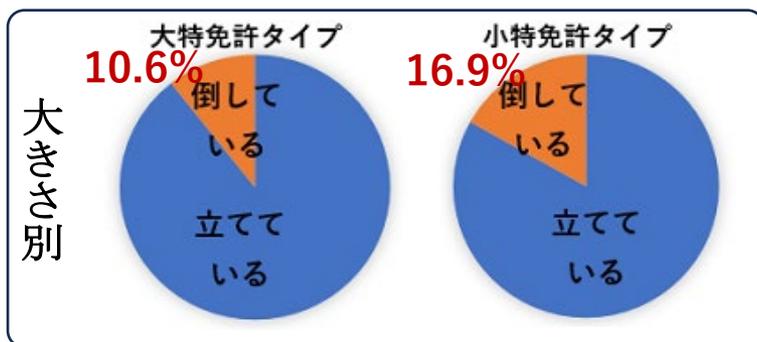


キャビンが高い

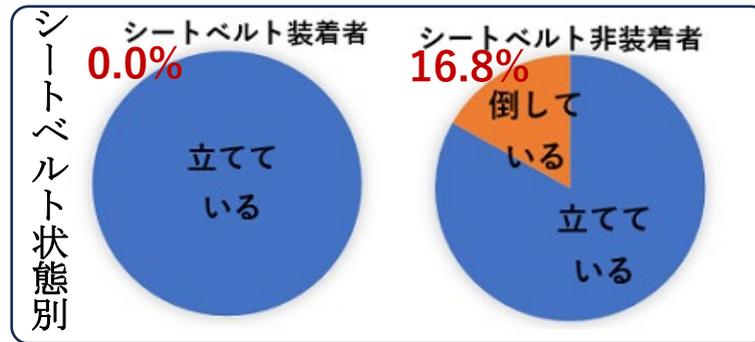
乗用型トラクター 安全フレーム倒したままとの状況



道路走行中が高い(ただし道路走行中のサンプルは少ない)

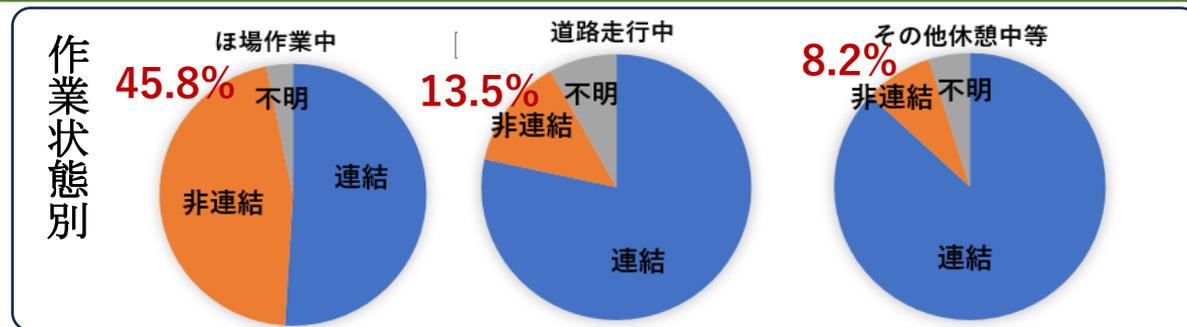


小特タイプの方が高い



シートベルト装着者にはいない

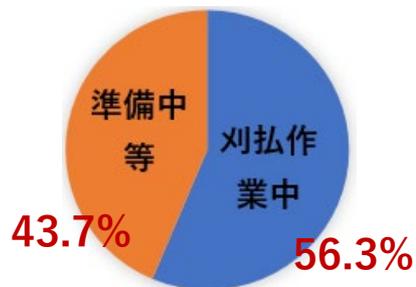
乗用型トラクター 左右ブレーキ非連結の状況



道路走行時でも13.5%が非連結

調査結果：刈払機

作業状況



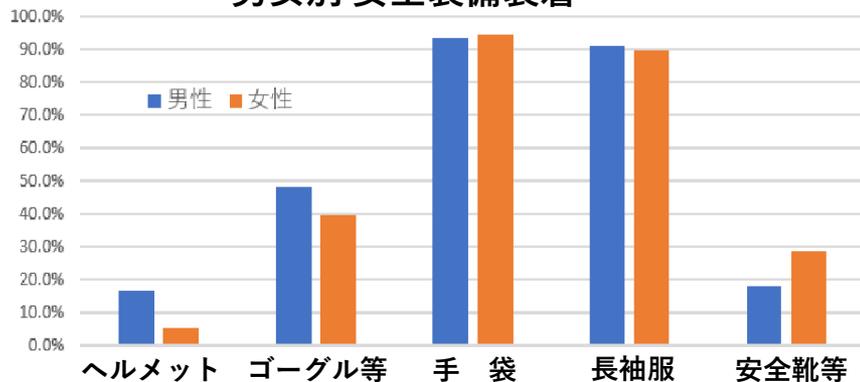
機種



手袋・長袖はしている、ゴーグルは半分、他の2つは装着少ない

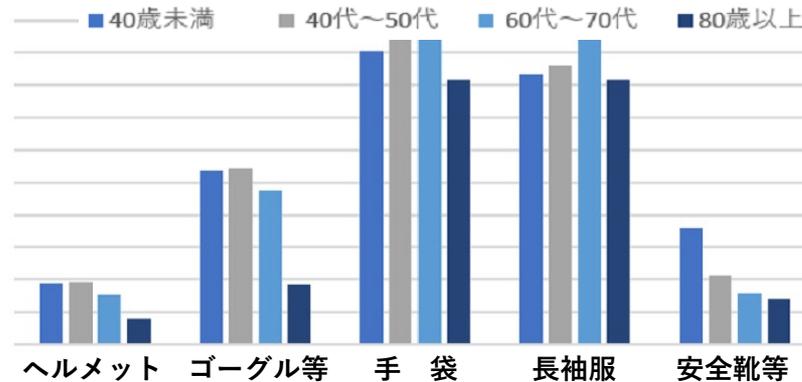


男女別 安全装備装着



若干女性が低い

年齢別 安全装備装着



概ね高齢者が低い

III 研修用動画の制作

○トラクター安全作業の基本（14分50秒）

乗用型トラクターを安全に使うための基本的事項を順を追って解説



○農作業事故 経験者は語る（19分38秒）

事故を経験された農業者ご自身から、状況や注意すべき点、経営への影響などをお話しいただいた

※当協会HPからダウンロード可 YouTubeでも視聴可